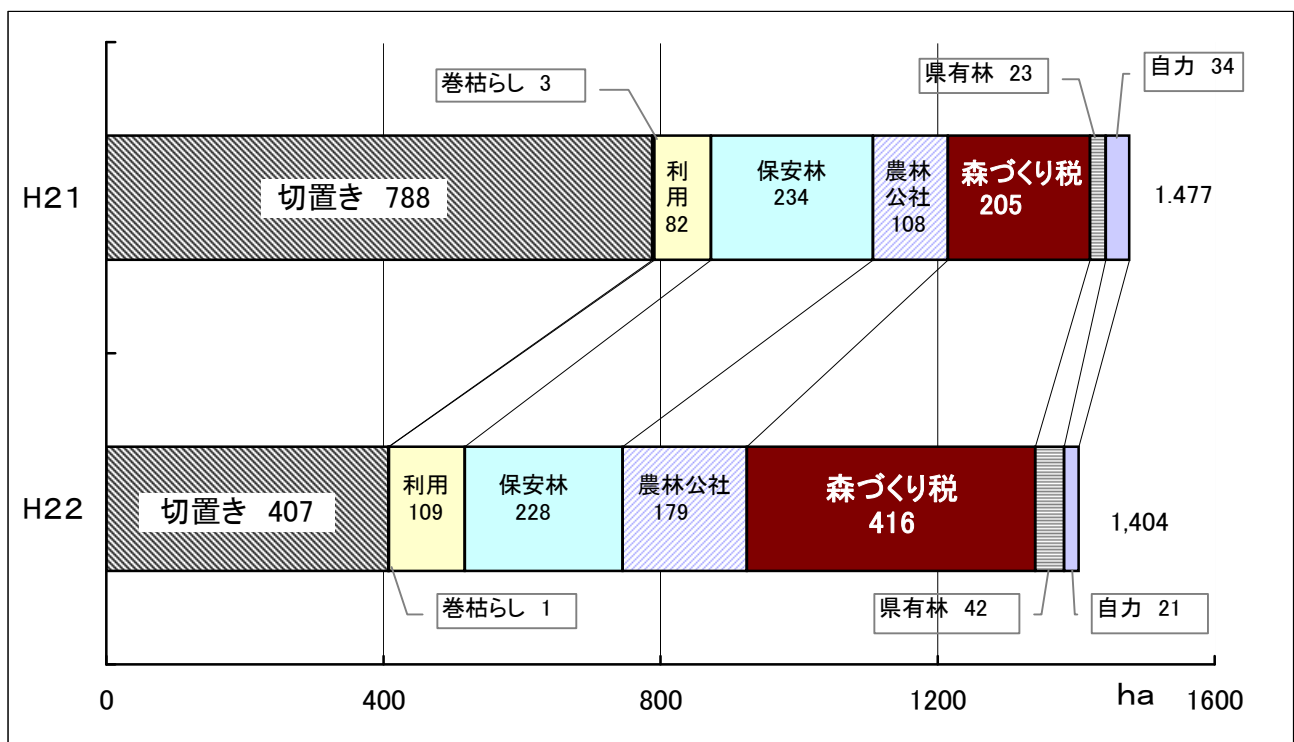


## 平成22年度 森づくり基本計画量に対する間伐実績

区 分		森づくり基本計画 H22計画面積	H22実績 (ha)	実行率 (%)	(参考) H21実績 (ha)
市補助対象等事業	切置き	990	407.07	41.1	788
	巻枯らし	100	1.22	1.2	3
	利用	150	109.15	72.8	82
	小計	1,240	517.44	41.7	873
国等実施事業	保安林	320	228.14	71.3	234
	農林公社	250	179.41	71.8	108
	森づくり税	240	416.16	173.4	205
	県有林	—	41.67	—	23
	小計	810	865.38	106.8	570
所有者自力等		—	21.18	—	34
合計		2,050	1,404.00	68.5	1,477



平成22年度 豊田市内の施業別 間伐実績

区分	市補助対象等事業															国県実施事業										所有者 等自力	合計
	公共造林事業			美しい森づくり交付金			加速化事業			矢作川 水源基金	市単独事業				計	治山 事業 (保安林)	農林公社			森と緑づ くり事業	県有林				計		
	小計	組合	市有林	小計	水環林	高齢級	小計	水環林	市有林		小計	市有林	高齢級	巻枯らし			小計	公共	加速化		小計	公共	加速化	県自力			
H21	483.3	440.0	43.2	113.6	98.7	14.9	9.1	—	9.1	218.3	48.8	48.2	—	0.6	873.1	233.9	107.6	107.6	—	205.0	23.3	9.0	—	14.4	569.8	34.2	1,477.1
H22	305.4	264.9	40.5	24.5	22.9	1.6	25.2	9.7	15.5	156.9	5.5	—	4.3	1.2	517.5	228.1	179.4	2.0	177.4	416.2	41.7	18.4	6.2	17.1	865.4	21.2	1,404.1
増△減	△ 177.9	△ 175.1	△ 2.7	△ 89.1	△ 75.8	△ 13.3	16.1	9.7	6.4	△ 61.4	△ 43.3	△ 48.2	4.3	0.6	△ 355.6	△ 5.8	71.8	△ 105.6	177.4	211.2	18.4	9.4	6.2	2.7	295.6	△ 13.0	△ 73.0

## (参考資料)

### 豊田市内の間伐事業量の推移 (平成21年度版豊田市森づくり白書より)

戦後、一斉に拡大造林された人工林は、昭和50年代に入って全国的に間伐時期を迎えたため、国は初めての間伐専門の補助事業として、昭和56年から間伐促進総合対策事業を始めました。愛知県もこの事業を採択し、本地域でも同年以後間伐事業が積極的に取り組まれるようになりました。

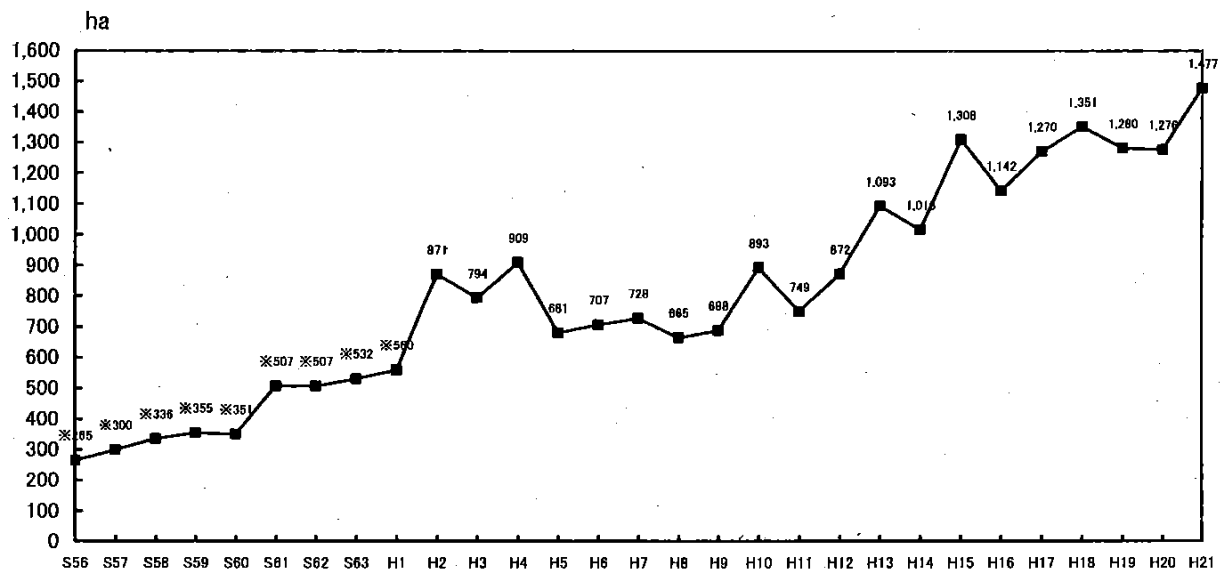
一方、矢作川流域では、全国的に見ても早い時期から「流域運命共同体」の気運があり、昭和53年に「(財)矢作川水源基金」が設立されて、同年より植林・下刈・間伐・作業路新設に対する補助金が交付されてきました。さらに、豊田市は平成6年4月から水道使用量1㎡当たり1円を水道の水源となる上流の森林保全に充てるため、全国初の事例となる「豊田市水道水源保全基金」を積立て、平成12年度から18年度までの間に、上流域に当たる旧東加茂・西加茂郡内に762haの水源保全林を選定したうえで646haの間伐を実施しました。



〈あいち森と緑づくり事業による間伐〉

また、愛知県は平成21年度からは、個人(給与所得者等)から年額500円、法人から毎年均等割額の5%を徴収する「あいち森と緑づくり税」を活用した「あいち森と緑づくり事業」による間伐を開始するなど、さまざまなメニューを組み合わせ、現在、間伐事業が実施されています。

豊田市はこれからも独自施策として「森づくり会議」と「森づくり団地」を核とした間伐事業を推進していきますが、各種の補助施策等を有効に組み合わせながら、市内の間伐手遅れ林の一掃を目指して努力していきます。



〈豊田市における間伐実施面積の推移〉

※S56～H1は間伐促進総合対策事業及び間伐等林業活性化緊急対策事業実績のみで他事業実績は不明。